

# まんだら通信

第156号(通巻188号)

平成21年(2009)06月 佛誕2575年

295-0103 千葉県南房総市白浜町滝口1084  
真言宗智山派 天神山 紫雲寺 高橋 龍渉  
郵便振替 00120-2-43163 紫雲寺  
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040  
http://www.shiunji.org/  
Mail post@shiunji.org



## 涙が出るほどいい話

### 母の無言の教え

群馬県前橋市 茂木安子(58歳)

老母が床についてはや八年をむかえました。戦後の日本の混乱のなかを、生まれたばかりの私を背負い、懸命に生きてきました。これまでの母の生き方は、本当にまねできないほどに、生きることへの執念を感じます。子どもを一人前にするために、朝も夜もなく働き続けました。

二十四歳で未亡人になり、女手ひとつで生きることは並たいていではなかったと思いますが、愚痴ひとつ言わず、自分を振り返ることもなく、化粧ひとつせすの日々でした。それから三十年、つぎは孫のために、精根

尽きるまで笑みを絶やすことなく生きました。

あるとき、町内会の婦人会で旅行参加のお誘いがきました。

「母さん、行ってきたら」

と言

うと、母は、「私が家にいなかったら、孫の面倒はだれがみるの」

と言

い、行きませんでした。それを聞

き、私たち夫婦は母の楽しみも取ってしまった

ていたことに、あらためて申し訳なさを感じ、はじめて母をつれて旅行に出ました。

しかし、母にとつての旅行は疲れを癒すものではなく、さらに疲れさせてしまうことが多かつたのです。母に甘えてしまっていたことを申し訳なく思いつつ、しかし母は、「ありがとう」と逆に感謝を言うほどに、私をかばっているのです。

そんなふうには、家を守り、家族を守ってきた母が、「もう、歩けないよ」と言い、床にいたまま、歩くことをやめてしまったのは八年前のことでした。そして、介護が始まったのです。

仕事と自宅での介護を両立するのは大変で、ともすると母の心を傷つけるような言動をしてしまうこともあり、反省する日が多々ありました。

でも、母の「ありがとう」の言葉は、私に勇気をあたえ、またがんばろうとする力をあたえてくれました。寝ついてしまった母から、私はまた、感謝の心を教えられ、感謝の心は人の心をも温かくしてくれることを知らされたのです。

生きることは、ともに生きること。そして生かすことでもあり、自分のために自分を助けてくれる人が周囲にいることを、ありかたく感じなければならぬと、しみじみ思わされました。

母が言う「ごめんね」の言葉は、自分が娘に負担をかけていることへの謝罪な

のでしよう。

ふたたび歩くことはない母。悲しみを胸がいつぱいになります。元気があった母が尽くしてくれた数々の事柄、そのことに対する恩返しは、一生をかけても返し尽くすことはできないでしょう。人を思う心の深さ、親子どもにかける無償の愛をしみじみと感じています。

「さあ、食べようね」

今日も食事がとれることが母の元気な証拠。一生をかけた母の生き方こそが、人生の最高の親切であると思います。

### 母からのメール

東京都小平市 菅野真衣(20歳)

大学入試がうまくいかず、進路が決まらずに高校を卒業した自分は、次の年に専門学校に行くことを決めました。

その学校の入学式の朝。その日は妹も高校の入学式だったので、母は妹のほうの入学式について行くためにあわただしく用意をしていました。

ふだんから、うちの朝はこんな感じで、その日も相手のことを構うことなく、妹と母は出かけて行きました。

とくに何を思ったわけではないけど、自分も入学式なのに何も言われずちよつとさびしいな……とふと考えた時、私の携帯電話に一通のメールが届きました。

「おめでとも言わずに出てきちゃってごめんね。今日からがんばって自分の夢に向かって歩きなさい」

母からのメールでした。涙が出ました。母の存在の強さに気づきました。

今月は「小さな親切」運動本部「涙が出るほどいい話」第十集から転載させて戴きました。



◆いつもなら季節に因んだ野草をご紹介しますのですが、『まんだら通信』始めて以来の例外です。

この子ガラス、犬の散歩の途中で足を怪我して道にうずくまっていたところを、孫が連れてきました。傷は治りましたが、怖いものなしで誰とでも遊びたい年ごろです。相手をしているのは、これも迷子で滝口郵便局から預かった子猫です。他のネコは迷惑そうに逃げますが、年ごろが同じなのか飽きもせずじやれあって、どちらもなかなか可愛いものです。

09.06.09 龍渉

## 余滴

◆梅雨入りも間近。如何お過ごしでしょうか。

◆6月6日6時半から、予てお知らせしていた『ふれあいコンサート』が開かれました。

市原の西廣院様のご住職とお檀家の皆さんや、船橋・千葉など遠方からもおいでになり、50人以上の聴き手で一安心でした。

今回は、フルートの深津純子さん、インドの打楽器タブラの名手逆瀬川健治さんというお馴染みの他に、サンフランシスコ在住のブラジル人ギタリスト、ファビアーノ・ド・ナシメントさんの華麗な演奏もあって終始堪能させてもらいました。

平成 20 年度紫雲寺経常会計収支決算書 (平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)

収入の部

科目	金額	摘要
繰り越し金	2,174,510	前年度より繰り越し金
檀徒拋出金	1,170,000	檀徒数 × 6,000 円
受け入れ利息	5,020	貯金利子
合計	3,349,530	

支出の部

科目	金額	摘要
租税公課	151,580	固定資産税 4,5100 宗費・教区費 106,000
会議費	0	役員会議
外注工事費	0	
損害保険料	154,858	農業共済分 7,430 万円 漁協分 5,000 万円
光熱水費	150,000	香華灯明費等一部負担
事務費	822	用紙
次期繰り越し金	2,892,270	20 年度末残金
合計	3,349,530	

総代名簿

6 月 7 日 (日曜日) 10 時半から、紫雲寺の定例総代会を開きました。

議案は次の通りです。

- ①平成 20 年度紫雲寺経常会計の決算報告
- ②会計監査報告及び決算承認
- ③その他

住職から、日頃の護持に対してのお礼などを申し上げたあと、会計の木曾志郎さんから決算書の内容について説明があり、監事を代表して山口勲さんからの間違いなく運営されているという報告があつて、皆さんに諮ったところ、全員一致で承認されました。

ご苦勞をおかけするのは総代の皆さん同じですが、特に気骨の折れる会計職を、無理を言ってお願ひしている木曾さんには感謝しています。

木曾さんには一昨年の今頃、本堂と庫裏の間に坪庭を作ってもらいました。

お友達二人と一緒に、土木機械や材料持ち込みで 1 週間かけて念入りな工事をして下さいました。

お陰様で、今では景色としてもすっかり馴染んでいます。

ところで、経常会計は境内や建物の補修工事などが必要になった時の用心のために、前もって用意している会計で、お檀家 1 軒当り年間 6,000 円負担していただいているものです。

境内南側の擁壁や永代供養墓『密嚴塔』などは、この会計から支出したことをご記憶と思います。

担当区	氏名	屋号
本郷区 大台	豊崎 寿明	又助
本郷区 谷	福原 洋一	伝兵衛
本郷区 神田・新道	鈴木 弘子	戸左衛門
本郷区 砂	福原 宏	仙道
本郷区 神田下	山口 衣子	権作
川下	早川 剛司	孫左衛門
川下	早川 昭治	六郎
川下	早川 石夫	紋佐
西横渚	山口 半治	半次郎
西横渚	山口 勲	医者殿
島崎・東横渚	星野 古市	久八
小戸・下沢・青木	宇山 和男	新弥
会計	木曾 志郎	清吉
※ 川下欠員 1 名		



ホタルブクロ【きぎょう科ホタルブクロ属】蛍を入れて遊ぶのでこの名があるのだそうです。